

講座名 助け合い体験ゲームで学ぶ

概要 ご近所での助け合いをワークショップによるゲーム感覚で体験する講座です。地域のニーズをみんなで把握し、具体的な活動につなげていきます。

所要時間 1時間半（グループワーク1のみ）～2時間半

準備物 机、椅子（1グループ5～6名）、マイク、ホワイトボード、プロッキーなど裏写りしないマジック、サインペン等、助け合い体験ゲームキット、スクリーン、プロジェクター、パソコン、延長コード、模造紙、受付用紙、※網掛けは、市社協でご用意できます。

始める前に グループ分け

方法1 アイスブレイクでグループ分けの時は、はじめ自由席。

方法2 グループ番号を記したカードやくじ等を用意し、受付でひいてもらう。

方法3 事前にグループ分けを行っておき、受付でグループ番号を参加者に連絡。

※事前にグループ分けする時は、年齢、男女、自治会、所属団体等なるべくミックスする。

	項目	時間（程度）	内容
1	アイスブレイク	5～10分	<その場でグループ分けをする時>方法1 簡単なゲーム形式のものでアイスブレイクをしながら、グループ分けを行います。その後、講座の目的や流れ等の説明を行います。 <事前にグループ分けを行ってある場合>方法2，3 講座の目的や流れ等の説明を行います。 ※ここで各グループ自己紹介をしていただく場合もあります。
2	講義	10～15分	見守り、支え合いについて等 ※講義は省略して、いきなり3のグループワークに入っても構いません。

アイスブレイクとは、緊張した固い空気や心を氷にたとえてそれを壊す、溶かすというもの。研修をはじめる前に簡単なゲームや自己紹介を行って、場を柔らかくします。



3	演習 1 助け合い体験 手順 1 選ぶ (個人ワーク)	15~20 分	① グループで進行してもらうリーダーを決めます。 ② テーブルに助け合い体験ゲームのカード (60 種類×3 枚) 180 枚をすべて見やすく広げます。 ③ 各自、自分がしてもらいたいことを 3 枚ずつ選びます。 ※できることではなく、助けてほしいと思うことを選びます。想像の人物になって選んでも OK。 してほしいことのカードがない場合、白カードにニーズを記入して追加しても構いません。 ④ グループ全員が選び終わったら、自己紹介とあわせて、なぜそのカード (サービス) をしてほしいのかを順番に話します。
			
4	演習 1 手順 2 交渉 (グループワーク)	15~20 分	① 手順 1 で紹介したカードを「誰かこれをしてくれませんか？」とグループ内で、交渉します。 ② 該当する人が見つかったら、カードを渡してください。3 枚全部が誰かに渡るまで交渉を会話を楽しめます。 ③ どうしてもグループ内で引き取り手がないカードがある場合、他のグループの人へ交渉します。
			
5	演習 1 手順 3 話し合 い、まとめ	15~20 分	① グループ内でここまでのゲームで感じたことなどを話します。 ② 全体の進行役 (市社協職員) がここまでのまとめの話をします。
6	休憩	5~10 分	

7	演習2 ニーズの掘り起こし	30分～40分	① グループワーク1をふまえ、個人単位の助け合いから、地域のニーズにおきかえて考えます。地域の困りごとや課題に対して、足りない助け合い活動が何かを考え、付箋に書き出していきます。付箋には、単語、短文等で簡潔に書きだします。思いついたものをどんどん書いていきましょう。 ※グループワーク1と同じく想像の人物になって考えてもOK。 ② 書き出した付箋をグループ内で順番に紹介（説明）しながら、模造紙に貼っていきます。その時、似ている内容ごとにグループ分けをしておきます。 ③ 誰もが安心して暮らせる地域とはどんな地域か、地域の助け合い活動を模造紙にまとめます。
			 
8	演習2 全員で共有	3分×グループ数（または、いくつか選抜）	① 各グループが発表します。 ② 発表形式は、順番に発表、または、ワールドカフェ方式など ③ 随時、質疑応答など
			
9	まとめ、終了		
10	アンケート		できれば、参加者アンケート実施。